

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                          |            |           |
|---------|--------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 2691200055               |            |           |
| 法人名     | 医療法人 栄仁会                 |            |           |
| 事業所名    | グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット) |            |           |
| 所在地     | 〒611-0013 宇治市菟道段の上20-1   |            |           |
| 自己評価作成日 | 平成30年10月16日              | 評価結果市町村受理日 | 平成31年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosoCd=2691200055-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosoCd=2691200055-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a> |
|----------|--|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |   |
|-------|---|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会                               |
| 所在地   | 〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1 ひと・まち交流館京都1階 |
| 訪問調査日 | 平成30年11月22日                                     |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・年間6回の防災訓練を行っており、火災のみならず地震や水害時の対応、緊急時歩行が難しい方の搬送方法、救急救命、AEDの使用方法等その時々で必要な訓練を行っている。  
 ・入所以前から参加していた地域の敬老会へ継続して参加して頂いたり、消防団への加入、花笠巡行等地域との繋がりを大切にしている。  
 ・月1回は花見やクリスマス会といった行事を企画したり、個別でも買い物や映画を見に行くなどのレクリエーションも積極的に行っている。  
 ・園芸の委員を決め、緑のカーテンを2年続けており、収穫したゴーヤでジュースを作り利用者と職員で飲んだりしている。宇治市のエコロジー委員会に出席している。  
 ・事業所内でボーリング部を発足し、法人内の別の事業所の職員にも参加して頂き、毎月活動を行っている。  
 ・浴室にリフト浴を設置し、浴槽へ入る事が難しくなった方にも、これまでと同じ様に入浴して頂いている。

開設11年目を迎えた事業所は「利用者にとってどうなのか・・・」と常に利用者中心に考え、利用者の高齢化とADLが低下してきている中でも、地域との関係、利用者の生活支援、馴染みの関係を大切に利用者の力を生かし発揮できるグループホームの在り方を職員の力を結集し追求しています。事業所運営は「防災・接遇・広報・園芸・・・」など委員会を組織し、それぞれに役割を持ち取り組む職員の意欲的な姿がみられます。職員の育成は内部研修の充実や外部研修を職員全員が1年に1回は受講し、受講後にレポートの作成や伝達で振り返りをしています。また常勤の看護師がユニットごとに配置され、協力医にも恵まれ健康面での安心感を得ると共に看取りケアを繰り返し行ない終末期の利用者にできることを話あっています。たくさんの方のボランティア(傾聴、生け花、リズム体操、掃除、リラクゼーション・・・等々)の協力を得るなどで、風通しの良いガラス張りの運営をされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                              | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | 66 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている<br>(参考項目:30,31)       | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) |    |   |

自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |  |
|--------------------|-----|--|---|--|--|
|                    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |   |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | 玄関に理念を掲示し、理念を心に刻み込んでいる。またケアプランの作成には理念であるそのひとらしさを大事にし、名前を見なくても誰のものなのかが分かるプランを作成出来るよう職員全員で考えている。                            | 立ち上げのメンバーで作成した理念「一人ひとりがそのひとらしく、地域に根ざしたサービス提供を」は入居者に書いて貰い玄関に掲示している。職員には接遇研修で説明し、日常の会話や様子から入居者の思いや願いを汲み取り職員で共有して介護計画に活かしている  | 季刊誌「やまぶき新聞」に毎月理念を掲載し、入居者を大切にしておられる姿勢や地域との関係性を表明する機会にされては如何でしょうか。 |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                             | 地域の夏祭りや花笠巡行等の行事に参加している他、自治会や消防団への加入も行い、やまぶきの郷で行う消防訓練には毎年消防団にも参加して頂いている。また御利用者個人で入所前から行かれていた敬老会に引き続き参加されている方もおられる。         | 回覧板や運営推進会議で地域の行事を知り、積極的に参加している。職員が消防団の一員となり地域との交流を深めている。事業所主催の「やまぶき祭り」は運営推進会議でチラシを配ってもらい、地域住民や子ども達と利用者との交流の場になっている。保育園児との交流や中学校の体験学習を受け入れ、認知症の理解や介護現場を知ってもらっている。ボランティアは大勢受け入れ活躍してもらっている。   |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 毎年地域の中学校の体験学習を受け入れており、御利用者との接し方や介護用具の使用方法、認知症や介護の現状を学んで頂いている。   |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 運営推進会議は、小規模多機能型住宅介護と合同で行い、その場で出される意見は必要に応じて職員間でも話し合いを行い、ケアに役立てるようにしている。また、ご家族にもお声掛けし、参加して頂いている。                           | 会議は家族・利用者・地域包括支援センター・介護保険課・自治会長・知見を有する者・職員のメンバーで構成し、2ヶ月毎に併設の小規模事業所と一緒に開催している。活動状況や利用者状況の報告を行い、活発な質疑応答をしている。利用者の介護度と年齢を知りたいとの意見が出て、資料に載せ事業所の様子をよく知ってもらおうようにしている。  |  |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                   | 介護相談員派遣事業を受けており、毎回最後に総括をし、改善すべき内容があれば、職員に伝達している。また、スタッフ会議にて介護相談員報告書を皆で振り返りをし、ケアに活かす努力をしている。運営推進会議においても宇治市の職員の方に参加して頂いている。 | 担当課には運営推進会議の報告書と次回案内を持って行き説明している。市主催のグループホーム事業所連絡協議会(11月から2ヶ月毎に開催)や行政主催の研修に職員も含め参加をして関係を深めている。   |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎年、身体拘束についての研修を行い、意識が風化しないようにしている。研修では身体拘束に伴う御利用者の疾患への影響から知らずにやっしてしまいがちな身近な拘束の事例等毎回趣向を変え、見方をかえながら拘束について学んでいる。             | 「身体拘束廃止に関する指針」を作成し目的を廃止に向けての現状把握、せざるを得ない場合の検討、解除の検討手続き、職員全体への研修及び指導とし、運営推進会議の構成員が入る身体拘束廃止委員会を設置している。職員への研修は事業所で年1回、法人全体で年1回行っている。他に接遇委員が年6回、言葉の抑制や職員の言動について研修を行っている。センサーマットを使用している件について、利用目的の明確化、毎月廃止委員会でモニタリングを行い使用しないケアの検討をしている。 |  |

京都府 グループホーム やまぶきの郷（もみじユニット）

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 虐待に関するマニュアルを定め、職員が閲覧できるようにしている。また、拘束と同様、毎年施設内にて研修を行う他、普段の着脱介助、入浴介助等で体にあざなどないか確認している。                                      |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 前回の外部評価実施時(平成28年)に比べ、今年度のほうが後見制度を利用されている方が増えている。これからさらに増える可能性がある。後見制度について不勉強な部分があるので施設内での勉強会で後見制度を学ぶ機会を設けている。             |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 契約時に十分な説明を行い、契約後も必要に応じて契約時の内容を繰り返し説明している。必要時には契約書の改訂を行い、本人家族に説明を行っている。  |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 年に一度、アウトカム評価を行っている。年に二回、家族会を実施し、アウトカム評価内容をご家族に公表している。   | 利用者は日々の生活の中で、家族や後見人は面会の時や家族会(年2回)そしてアウトカム評価(家族アンケート)で意見を聞いている。アンケート結果や把握した意見は書面で家族に報告し、家族会でも発表している。家族からは居室の空調の温度設定についての意見に、温湿度計を購入し、快適に過ごせるように改善に結びつけている。                                   |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 朝の申し送りやスタッフ会議に管理者にも参加を促し、希望があれば直接言える機会を確保している。  | 申し送りやスタッフ会議、全体会議、個別面談で、職員からの意見を聞き尊重して反映している。緑の好きな職員が市のエコロジーの取り組みでゴーヤの「緑のカーテン作り」や園芸委員が市の公園公団緑化助成事業「プランター貸出」事業に参加して事業所の緑化や花の栽培を入居者と共に取り組み楽しんでいる。また誤嚥を防ぐ嚥下体操を職員からの提案で取り入れていくなど、職員のやる気を大切にしている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 定期的な面接を行い、意見をくみ上げ、環境整備に反映させている。<br>定期的にストレスチェックを行い、職員の精神面でのフォローを行っている。  |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 毎年、各職員は希望する研修計画を作成し法人等から紹介される研修または個人で探してきた研修に参加する形をとっている。研修参加後には職員に伝達研修を行い、自分だけでなく施設にフィードバックできるようにしている。                   |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内ではあるが教育委員会の研修では同職種者と新任者研修では他部門との交流を行っている。また、法人内でボーリングサークルを発足し、事業所問わず職員に参加して頂いている。地域の行事に参加した際は全ての法人内の職員が見れるような形で発表している。 |   |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 外部評価   |  |
|----------------------------|-----|--|--|--|
|                            |     |  | 自己評価<br>実践状況   | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式シートを用いて御本人の言葉を、拾ったり、御家族から情報を頂き、その人らしく生活できるサービスにつなげている。他施設からの入居の際には、施設の職員にも話を聴き、ニーズの把握に努めている。 |  |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | センター方式シートをもとに、家族の思いを知り、サービスに繋げるとともに、家族もチームの一員であるという意識をもって頂いている。                                    |  |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 本人や家族のニーズによって同施設内にある小規模多機能居宅介護や居宅介護支援の利用を提案している。   |  |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 日々の関わりやセンター方式シートからの情報をもとに、一人ひとりの得意分野・性格を知り、御利用者が一員であると感じて頂ける関わりをもっている。(掃除、食事の準備、片づけ、洗濯物たたみ等)       |  |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族会・運営推進会議・行事等への参加の機会を設けたり、自宅に帰り、家族と家で過ごす時間を作ったりと、つながりを大切にしている。                                    |  |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 自宅に帰り家族との時間を過ごして頂いたり、入居前から参加されていた老人会に参加して頂いたり昔なじみのお店に出かけたりと、馴染みの関係が途切れない様に努めている。                   | 事業所は交通の便も悪く坂道で、馴染みの人は来にくい環境にある。馴染みの美容院や老人会への参加や実家で働く息子の姿を見に行ったり、海を見たい希望にはレンタカーを借りて行っている。また、職員が情報を提供し映画や演芸を見に行くなど、毎月の個別外出で馴染みの関係や本人の行きたい場所に行っている。新たに馴染みになった他のユニットの方との関係継続も大切にしている。クリスマス・敬老の日・誕生日のプレゼントを家族に用意してもらい、家族との関係継続も大切にしている。 |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 御利用者の性格や相性を考え、リビングで過ごされる際の座る位置の工夫を行ったり、集団での生活が苦手な方は、個人テーブルの活用や時間の調整等でくつろぎの空間づくりをしている。              |  |
| 22                         |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている  | 退所される利用者、家族へ他施設の紹介や入所の申し込み方法の説明、申請代行等、退所後の相談、フォローを行っている。   |  |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 担当の職員を中心に、日々の生活の中で<br>の言動をもとに、御利用者の希望・思いを<br>把握し、その情報を全職員で共有し、必要<br>に応じてケアプランに落とし込み、希望、意<br>向の実現に努めている。                       | 入居時に家族にセンター方式シートを記入して<br>もらい、利用者からは、こまやかな情報収集で意向<br>の把握に努めている。新たなニーズの発見時は<br>ケアマネジャー、また健康状態のことは看護師と<br>連携をとっている。意向の把握の困難な方は担当<br>の職員が中心になり表情や家族に今までの様子<br>を聞いて本人本位に検討をしている。  |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環<br>境、これまでのサービス利用の経過等の把握に<br>努めている   | 入所時には家族に、センター方式シートの<br>記入をお願いしている。御利用者からも、昔<br>の話を伺い、細かな情報収集に努めている<br>。   |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する<br>力等の現状の把握に努めている   | センター方式シートを用いて気分や心身状態の<br>変動、日中の過ごし方、ニーズの把握に努めて<br>いる。それにより新たなニーズの発見時にはケ<br>アマネジャー、心身状態に変化があれば看護師<br>と連携し必要な対応を行っている。          |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方<br>について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、<br>それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即<br>した介護計画を作成している | 担当職員で話あったり、週一回のスタッフ会議で<br>課題を挙げ、他職員の意見にも耳を傾けなが<br>ら、より良いケアにつながるよう努めている。身<br>体状況については主治医に相談し生活を行う上<br>で気をつける点等の聞き取りを行っている。     | センター方式のアセスメントやケアマネジャー、医<br>師からの情報をもとに担当職員が中心に「くらしの<br>情報」を職員で出し合い「出来る出来ないシート」<br>の記入と「私に分かること私に分からないこと」、<br>「一日の生活の流れ」をもとに本人・家族・看護<br>師・ケアマネジャー・担当職員でサービス担当者<br>会議を行い介護計画を作成している。モニタリン<br>グは3か月ごとに担当者とケアマネジャーで行い、<br>介護計画とアセスメントは1年に1回は見直し、申<br>し送りで伝達をして共有している。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を<br>個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら<br>実践や介護計画の見直しに活かしている                            | 日々の記録には、センター方式シートを活<br>用し、分析を行っている。ケアの工夫で上手<br>くいったことがあった際には申し送りで伝達<br>し、その場限りのケアにならないようにして<br>いる。                            |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ<br>に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟<br>な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                   | 同法人内の施設で行われるレクリエーションへの<br>参加を促したり、スタッフと買い物に出かけたり、<br>一時帰宅頂く等、施設内での生活だけにならな<br>いよう配慮している。施設の活性化を図る為にも<br>様々なボランティアの受け入れを図っている。 |  |                   |

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|---|--|--|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域のお祭りや近隣施設の催し物に参加して頂いている。地域保育園児との交流・学生の職場体験の受け入れをしている。  |  |  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 訪問診察を定期的を受けている。体調不良時、家族や本人が希望される際には主治医と連携を取り、緊急訪問診察や他科への受診を行っている。  | 入居時にかかりつけ医の希望を聞き、往診のある協力医を受診希望される方が多い。内科・歯科・歯科衛生士の往診がある。家族が診察に同行する時は情報を渡し本人の様子を伝えている。協力医は常時、相談や指示を仰げ往診も24時間可能である。眼科や耳鼻科の受診は職員が同行している。看護師が各ユニットに常駐し健康管理を行うと共に携帯電話で24時間連絡や相談ができる体制である。 |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 日中一名は看護師が出動している体制を取り、御利用者の状況を把握している。夜間も看護師が常に専用の携帯電話を所持しており、連絡・相談ができるようにしている。  |  |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 御利用者や家族には予め、搬送を希望する病院を聞き、入院時にスムーズに移行できるようにしている。また、入院後も面会に伺い、入院先の看護師との情報交換を行っている。   |  |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | ターミナルに関する研修を行いグループホームでの看取りについて定期的に話し合いを行っている。入居時や家族会等の機会に、ご家族・御本人に看取りに関する聞き取りを行うとともに、気持ちの変化に対応出来るよう、年に一度は看取り期の対応について再度確認するようにしている。 | 家族に「看取り介護指針」に沿って説明し、思いを聞き同意を得、年に1度は終末期の在り方の確認をしている。職員は看護師からターミナルケア研修を年1回受けると共に外部研修にも出ている。協力医は24時間往診の協力がある。看取り後はスタッフ会議で職員のメンタルケアや次に繋がる方向で振り返りの会を行っている。                                |  |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変時、事故発生時の対応についての研修を職員全体で行っている。また、消防署に依頼し救命講習(AED含む)を受け、職員全員に設置場所の把握・使用方法を学んでいる。   |  |  |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年に6回防災訓練を行っており、火災のみならず、地震、有事の際動けない方の搬送方法等、その時々が必要と思われる訓練を行っている。また、施設職員が消防団に参加しており、訓練に参加して頂いたり協力体制の構築を行っている。                        | 消防担当委員が中心になり年間6回の訓練を実施している。職員が消防団の団員になり活躍している。訓練は年2回消防署との連携で火災・地震・動けない利用者の搬送・救急救命・夜間想定訓練を行っている。訓練の時は自治会や消防団の応援を得ている。備蓄は出入り口の出し易い倉庫に、おかゆ・乾パン・水を2日分準備している。                             | 最近の災害では道路の封鎖や停電等思いがけない事態が起っています。最低3日分の食料の確保を考えていかれてはいたがでしょう。 |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 外部評価  |  |
|----------------------------------|------|--|---|--|
|                                  |      |  | 自己評価<br>実践状況  | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 接遇マナーに力を入れており、接遇委員中心に職員全体で研修を行っている。また、スタッフ会議ではユニットの月目標を決め、全員で接遇向上の意識を持つようにしている。プライバシー保護・コンプライアンス研修もやっている。           | 接遇研修で日々気になる事例を話し合っている。トイレでドアを開いたままの人や便器が汚れたときはすぐに掃除を行うなど気をつけている。忙しい時など命令口調が見られた時は職員同士で注意をしい利用者への誇りを損ねないように努めている。   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日頃からご利用者と関わりを持ち、御本人の希望や思いをくみ取っている。また、思いを伝えることが難しい御利用者からはご家族の思いや以前の暮らしを伺い、希望に添えるよう心掛けている。                            |  |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 御利用者一人ひとりの生活歴を把握し、その人の得意分野を活かせるように心がけている。例えば掃除や台拭き等を分担し、生きがいや、やりがいをもって生活して頂いている。                                    |  |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 普段から髪を整えたり、ひげをそったり、清潔感を保って頂いている。レクリエーションがある日や外出日は特に、おしゃれな服を着たり、女性はお化粧品やネックレスをつけて頂いている。買い物に行った際には好みの服を選んで頂いている。      |  |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食べたいものを尋ねたり、御利用者と一緒に買い物に行き、献立を考えている。可能な方には下膳や洗い物をして頂いている。また、お誕生日にはその方のお好きな物、食べたい物をメニューに取り入れている。                     | 買い物や野菜の下処理、テーブルふき、下膳、洗い物など利用者の力を活かしながら参加してもらっている。栽培した夏野菜やシイタケを使うなど楽しんでいる。外食は利用者の食べたいものを聞き、1人～2人で出かけ、夏には居酒屋ツアーも企画している。法人病院の管理栄養士による職員研修やカロリー計算などで利用者の食べることの楽しみごとを学んでいる。 |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 献立が重ならないよう毎日献立を記入し、どんな食事をしているのかご家族も知って頂けるよう壁に食事内容を掲示している。中庭でゴーヤを栽培し、収穫してそれが食卓にならぶ楽しみを感じて頂いている。必要時には管理栄養士に相談を行っている。  |  |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 誤嚥防止の為、食前の嚥下体操を御利用者が主体になって取り組んで頂いている。歯が残っておられる方には訪問歯科による訪問衛生指導を定期的に行い、結果をふまえ、歯磨きの援助を行っている。義歯の清潔保持の為、洗浄剤使用の援助も行っている。 |  |

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじユニット)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | センター方式シートを活用し、排泄パターンの把握に努め、個々の排泄リズムに添って声掛けや誘導を行っている。気分の変動に合わせて、布パンツとリハビリパンツの使い分けをしている。   | トイレでの排泄を原則とし、個々の排泄パターンに合わせ声をかけている。立位の困難な方も2人介助で便器に座れる自立に向けた支援をしている。歩行が困難で尿取りパットやポータブルトイレを使っていた方が、病気で体重が減少し歩行がしっかりして来たので布パンツで過ごせる支援をしている。                                      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 朝食時に乳製品やヤクルト・バナナなどを召し上がって頂いている。日中の水分量も配慮し、10時・15時の補水を促している。食事では野菜を多くとって頂けるよう調理をしている。   |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 曜日を気にされている方には特定の曜日に入浴して頂くようにしている。立位保持が難しい方には小規模多機能の機械浴や、7月にグループホームに設置したリフト浴に二人介助にて入浴して頂いている。入浴剤や保湿剤、柚子湯で入浴を楽しんで頂いている。                | 週2回希望の時間帯に入浴をしている。シャンプー・リンス・ボディソープは利用者個々の好みのもを一人ずつセットにして準備している。入浴をしない日は清拭やシャワー浴を行っている。入浴拒否の方は代わる代わる職員が声をかけて入浴している。リフト浴の設置で利用者が安全に安心して利用でき入浴を楽しめている。                           |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 和室で過ごして頂けるようにテレビやソファを置き、なごんで頂けるようにした。日光浴や園芸を楽しんで頂けるように玄関先にベンチを置き、花を植えてゆっくり過ごして頂けるように工夫している。  |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 記録ファイルにお薬リストをファイリングし、全職員がすぐに見られるようにした。主治医・看護師・薬局と連携をとり、薬が変わった時はすぐ分かるように服薬箱に変更の日時・薬名を記入してもらうよう、薬局に依頼し、セット時は職員も確認するようになった。             |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 長年家事労働をされてきた方には職員と一緒に調理・園芸など出来る事を支援している。嗜好品(菓子・コーヒー)を本人の希望でお出している。スポーツ観戦がお好きな方にはテレビ放送のある時に観て頂いている。生花が趣味の方には生花のボランティアの時に参加の声掛けを行っている。 |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々の関わりの中から、希望している外出先などを伺い、映画鑑賞や外食等の外出レクリエーションを季節ごとに行っている。意思の疎通の難しい方にはご家族に相談し自宅に帰ったり、家族も含めた外出を行っている。                                  | 事業所の前庭や2階のベランダで日光浴や外気浴、そして近くの公園まで車で行き、安全な場所で散策を楽しんでいる。季節ごとの外出は法人の大きな車を借りて出かけている。個々の希望を聞いて買い物や喫茶店、ペットカフェ、実家にも出かけている。初詣に宇治上神社でお詣りし大型スーパーで喫茶を楽しんでいる。行事の時に家族も一緒に出掛けられるように支援をしている。 |                   |



京都府 グループホーム やまぶきの郷（もみじユニット）

| 自己 | 外部   | 項目   | 外部評価  |  |
|----|------|--|---|--|
|    |      |  | 自己評価<br>実践状況  | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容  |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 各自、お小遣いを金庫で管理し買い物・外食等ご家族に連絡の下、自由に使えるようにしている。ご家族・本人の希望で財布を持っておられる方は御自分で持っているお金を使って頂いている。御自身で財布を持ち、お金を使う事によって安心感・社会的地位の保持になっている。  |  |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 直筆で書かれた文章に職員が一言添えて投函の支援をしている。手紙のやりとりや電話でお話しされる方には取次等のお手伝いを行っている。  |  |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関先や中庭に季節の花や野菜を植えたり、正月飾りやひな人形等季節感のある空間づくりを行っている。月に二回、生花の先生をお呼びし、御利用者で季節の花を育てている。台所で調理をしながら会話したり、家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。 | 玄関前の園芸担当が植えた花の寄せ植えに心和まされ、利用者は時折玄関を出てベンチに座って楽しんでいる姿を見かける。オープンキッチンの前の食堂兼リビングは床暖房で心地よく、続きの量の部屋はソファを置きその方にあつた過ごし方をしている。台所の音や料理の匂いがして食事を心待ちにされる姿も見られる。テーブルでは花笠の花や行事の準備を利用者と一緒に行っている。換気は一日2回時間を決めて行い、温・湿度は計器で管理し11月～3月の間は加湿器を居室とリビングに置き、感染症の予防をしている。共有空間の清掃は定期的に来てもらう清掃ボランティアと職員が行い、清潔な空間で居心地よく過ごせている。 |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 気の合った人と歌唱をしたり、テレビを見て頂いたり中庭に野菜を植え、家庭菜園を楽しんで頂いている。ご自宅で使用していた馴染みのテーブルをリビングで使っておられる方もおられる。  |  |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 御利用者はタンスやテーブルなどの使いなれた家具やテレビやラジオを置いて、自由な時間を過ごして頂いている。ご家族の写真や孫様の絵を飾っておられる方もいる。家具の耐震なども考慮した安全な居室作りを支援している。                         | 居室の入口に馴染みの人形などをかけられ、馴染みのタンスや小さなテーブル、椅子などや自分で描いた油絵をキャンバスに立てかけたり、家族からのプレゼント、家族の写真、孫の絵を飾り楽しんでいる。消防署の指導で、家具の倒れてくる方向にベッドを置かない、タンスがずれていく方向にシートを敷く、など安全に気を付けている。居室の清掃は利用者と一緒に職員が行い、年末には家族に大掃除に来てもらい、居心地よく過ごせるようにしている。   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 転倒防止の為、手すりを持った移動の声掛けや調理・食器洗い・洗濯物たたみ・ごみ集め・水やりなど「できること」への支援をしている。   |  |